日本保健物理学会、日本放射線安全管理学会打ち合わせメモ

日時：2023年8月23日（水）13：55～１5：00

場所：大阪大学吹田キャンパス

放射線科学基盤機構附属ラジオアイソトープ総合センター（吹田本館) 1階会議室

出席者：

日本保健物理学会　杉浦会長、秋吉大会長

日本放射線安全管理学会　中島会長、吉村大会長

8月9日開催の日本放射線安全管理学会理事会での合同大会可能性についての議論を説明し、合同大会開催の意義やメリット、デメリットなどを話し合った。放射線防護関連の学会で会員数が減少傾向にあることを踏まえ、合同大会を開催することにより、学会活動や学会発表の活性化を図るものであることを確認した。また、将来両学会の統合などを意図するものではないことを確認した。このようなことを確認したうえで、

・2024年は大阪で合同大会を開催することとした。

・2025年は個々の学会で開催とすることとした。

このような合同大会、それぞれの大会の経験を整理して今後に活かすこととした。

大阪での合同大会は、12月16日～18日大阪大学吹田キャンパスで開催し、事務的なことはこれまでの合同大会開催者に問い合わせたうえで決めることとした。

発表の持ち時間は15分が良い、Confitを使えないかなど、様々な意見交換を行った。

今後の合同大会に向けての議論について

日本保健物理学会：杉浦先生、佐々木先生、伊藤先生、榎本先生、秋吉先生

日本放射線安全管理学会（案）：中島、吉村先生、久下先生、柴田先生、渡部先生

を選出し、今年の両学術大会以降に検討を開始することとした。

今年、6月シンポジウムを合同で開催したが、実態としては、1日目は主として保健物理学会、2日目は主として日本放射線安全管理学会がそれぞれ開催した。しかし準備された先生の負担が大きかった。今後については、両学会でよく議論したうえで、どうするか検討することとした。

両学会の連携だけでなく、アンブレラ事業の後継に関しても学会連携として重要であることを確認した。今後については慎重に議論する。